

## 【第7回 蒲田西プラットフォーム開催内容】

◆開催日:11月26日(金)18時~19時15分

◆場所:社会福祉センター 会議室

◆参加者:30名

地域関係者、介護事業者、障害者福祉事業者、東京工科大学、シニアクラブ、民生委員児童委員、社会福祉法人、NPO 法人、(株)JCOM、民間企業、大田区役所職員等。



《プラットフォームの風景》

◆内容:

話しあいテーマ:自分の住みたい『町』一緒に考えてみませんか？

### ① 各団体さんから住みたい町について

・コミュニティスペースにしかまた

⇒地域の中で、障がいを持っている方、高齢者、子どもたち等、それぞれが安心できる居場所が持てる『町』

・ボランティアグループしおん

⇒地域の中で『食』に困る方がいない『町』

・「みんなのいすプロジェクト」(こども食堂だんだん、HANPA はすめま、東京工科大学)

⇒疲れたときに、ほっとできる座れる場所がある『町』

### ② グループワーク形式(6グループ)の話し合い

【テーマ:自分の住みたい『町』一緒に考えてみませんか？】

■私は、こんな町に住みたい。この地域をこんな町にしたい。

- ・世代を超えて気軽に集える場がある町
- ・「近所の人」という意識ではなく、「近所の仲間」と思えるような町
- ・良い意味でおせっかいな人が多い町
- ・世代に関係なく、それぞれが知っていることを教え合える町
- ・いろいろな年代の方々と自然に話ができる町

■こんな町にするために、何が必要ですか。そのためにできることはありますか？

- ・声をかけあう習慣を地域に広げる(子どもたちには、声がかかりにくい現状がある。学校機関からの指導もあるため、理解が必要)
- ・若い世代の大人が集まれる場が少ないので、子ども一緒に入れる場を作ることも必要。
- ・季節に合わせたイベント
- ・交流機会が取れるプラット立ち寄れる場所が必要。(起業家が集まるフリースペースが人気、目的が同じだと自然と交流が生まれる)

■アンケート結果:参加満足度:86%

主な参加者の声:

- ・住みたい町を考える中で、自分自身の思い、行動を考えなおすきっかけとなりました。
- ・毎回多様な方の意見を聞くことができ、参考になります。
- ・同じような意見であっても、それぞれの人・班で違う言葉を使っていて、生で話すおもしろさを感じました。
- ・皆の思いは、同様なので、少しずつ支え合える地域づくりができていくのではと思いました。